

令和6年2月1日

世田谷区医療的ケア連絡協議会 事務局

令和5年度 医療的ケアを必要とする障害児（者）への支援について

医療的ケアを必要とする障害児（者）への支援の取組みについて、下記のとおり報告します。

1 世田谷区医療的ケア相談支援センターHi・na・taの運営（障害福祉部障害保健福祉課）

Hi・na・taは、相談者の自宅や病院等を訪問するアウトリーチ手法による相談等も行いながらボランティアの協力を得て、保護者がゆっくりほっとできる場を目指す。

令和6年度以降の運営事業者の公募を行い、（社福）全国重症心身障害児（者）を守る会が選定された。

2 通所施設への助成（障害福祉部障害保健福祉課・障害者地域生活課）

令和元年度より、医療的ケア児を受け入れる区内の障害児通所施設に、令和3年度より、医療的ケア者を受け入れる区内の障害者通所施設に対し、施設の運営費を補助する事業を開始し、施設運営の安定化と受入れ施設の拡大を図る。

（都の重症心身障害児（者）通所運営費補助を受けている事業は、区の補助対象から除く）

年度	補助事業所数	内訳
令和4年度	9箇所	重心児通所施設 5箇所 (Ohana kids station、こどもデイういず、メディキッズ梅が丘、Casa di tutti みんなのおうち、カンガルー療育支援室) 障害児通所施設（重心児以外） 4箇所 (プレイ&リズム希望丘、アプリ桜丘、愛育学園すみれ、そらのいろ梅丘)
	3箇所	障害者通所施設 3箇所 (友愛デイサービスセンター、イタール成城、ケアセンターふらっと)
令和5年度	9箇所	重心児通所施設 5箇所 (Ohana kids station、こどもデイういず、メディキッズ梅が丘、Casa di tutti みんなのおうち、カンガルー療育支援室) 障害児通所施設（重心児以外） 4箇所 (プレイ&リズム希望丘、アプリ桜丘、そらのいろ梅丘、障害児保育園ヘレン経堂)
	3箇所	障害者通所施設 3箇所 (友愛デイサービスセンター、イタール成城、ケアセンターふらっと)

3 医療的ケアに携わる人材育成研修（障害福祉部障害保健福祉課）

（1）在宅医療を支える訪問看護研修

各訪問看護ステーションで実施可能な医療ケアを拡大していくため、平成30年度から世田谷区福祉人材育成・研修センターの専門性向上事業の一環として開始した。

年度	実施回数	参加人数
令和4年度	2回	延67名視聴
令和5年度	2回	延48名視聴

（2）多職種合同研修（小児等在宅移行研修）

医療的ケア児への理解促進と多職種にわたる連携について理解を深めるために、令和元年度より「多職種合同研修（小児等在宅移行研修）」を開始した。

年度	実施回数	参加人数
令和4年度	1回	22名参加
令和5年度	1回	（開催予定）

（3）医療的ケア児支援テーマ別研修

医療的ケア児への具体的な支援方法と理解促進のために、令和元年度より「医療的ケア児支援テーマ別研修」を開始した。

年度	実施回数	参加人数
令和4年度	1回	28名参加
令和5年度	1回	（開催予定）

（4）小児訪問理学療法士研修（成育医療研究センターとの共催）

医療的ケア児を含め、世田谷区の子どもたちが必要なリハビリテーションを受けることができるよう、小児の発達、成長と生活の視点を持って訪問理学療法を行える人材、また人材養成の中心となる人材を養成するため、成育医療研究センターとの共催研修実施とし、令和3年度より区主催にて実施。

年度	実施回数	参加人数
令和4年度	3回	延べ70名参加
令和5年度	3回	延べ34名参加

(5) 介護職員等の喀痰吸引研修補助（医療的ケア児喀痰吸引等研修費補助）

障害児者施設の介護職員等が、民間の教育・研修機関でたんの吸引等のための研修を受講した場合に研修費を補助する制度を令和2年度より実施している。

4 医療的ケア講演会 （障害福祉部障害保健福祉課）

	日時	参加人数	講演内容
令和4年度	令和4年10月19日 (オンライン開催及び世田谷文化生活情報センター)	45名	「人工呼吸器をつけて生活する子どもたち」と題し、ショートムービー「ぼくのおとうとは機械の鼻」上映と講演を実施。
令和5年度	令和5年11月8日 (オンライン開催及び世田谷文化生活情報センター)	45名	「今日からあなたもサポーター！医ケアを支えるインクルーシブ社会を築こう」と題し、講演を実施。

5 ふるさと納税を活用した医療的ケア児等を育てる世帯への支援事業の実施

(障害福祉部障害保健福祉課)

世田谷区医療的ケア児の笑顔を支える基金の創設に伴い、令和2年度末までに集まった寄附金は基金へ統合し、令和3年度より基金より下記事業に対する補助を行う。

世田谷区医療的ケア児の笑顔を支える基金

寄附開始 令和3年4月1日

⇒寄附額 令和5年12月末までの寄附額（累計） 1,816件 78,052,324円

年度	件数	総額	備考
元	138	9,027,000	医療的ケア児ときょうだいにキャンプを贈ろう！
2	42	2,103,000	医療的ケア児ときょうだいにキャンプを贈ろう！
	149	5,350,676	医療的ケア児のための災害時の”つながり”をつくりたい
3	240	12,793,870	医療的ケア児の笑顔を支える基金
	1	4,777,500	医療的ケア児の笑顔を支える基金（地域保健福祉等推進基金からの積替え※遺贈）
4	503	18,116,963	医療的ケア児の笑顔を支える基金
5	743	25,883,315	医療的ケア児の笑顔を支える基金

(1) 募集事業

①事業名 医療的ケア児ときょうだいにキャンプを贈ろう！（補助上限1事業100万円）

②事業名 医療的ケア児のための災害時の“つながり”をつくりたい

(補助上限1事業80万円)

③医療的ケア児等を対象とする支援事業を新たに始める事業者支援

(補助上限1事業100万円)

(2) 事業実施実績

令和4年度	<p>人工呼吸器等を使用している医療的ケア児へのポータブル電源等の配布を9月末までに実施。</p> <p>・配布数111件(ポータブル電源+小型ソーラーパネルのセット)、1件(インバーター装置) ※使用状況アンケート結果は、資料1-2参照)。</p>
	<p>社会福祉法人せたがや檜の木会の取り組み</p> <p>地域の災害対策支援作り「医療的ケア児とその家族が安心して暮らせるために」</p>
	<p>社会福祉法人むそうの取り組み</p> <p>ほわわ花見堂と地域の災害支援体制づくり</p>
令和5年度	<p>人工呼吸器等を使用している医療的ケア児へのポータブル電源等の配布を12月末までに実施。</p> <p>・配布数11件(ポータブル電源+小型ソーラーパネルのセット)、4件(インバーター装置)</p> <p>※医療的ケア児の笑顔を支える基金の活用以外に、18歳以上の医療的ケア者を対象としたポータブル電源等の配付も実施。</p> <p>なお、令和6年2月に使用状況アンケート実施予定(資料1-3参照)。</p>
	<p>国立研究開発法人 国立成育医療研究センター(もみじの家)</p> <p>医療的ケア児とその家族を招き、リコー総合グラウンドでのキャンプ体験、防災展示、世田谷区に拠点を置くラグビーチーム「ブラックラムズ東京」の選手たちの協力によるラグビー体験など。</p>
	<p>公益財団法人 ハーモニイセンター</p> <p>医療的ケア児とその家族のためのポニー乗馬・ふれあいイベント</p> <p>(会場:国立研究開発法人 国立成育医療研究センター中庭や小貝川ポニー牧場)</p>
	<p>特定非営利活動法人 Ubdobe(ウブドベ)</p> <p>医療的ケア児とその家族の交流会。</p> <p>(会場:国立オリンピック記念青少年総合センター)</p>
	<p>特定非営利活動法人 メディキッズ</p> <p>メディキッズと地域の災害支援体制づくり。</p>
	<p>社会福祉法人 全国重症心身障害児(者)を守る会</p> <p>医療的ケア児も体験する施設と地域の災害支援体制づくり。</p>

6 区立保育園での医療的ケア児の受け入れ（子ども・若者部保育課）

- ①スケジュール 平成30年度 区立松沢保育園
令和 元年度 区立豪徳寺保育園、区立希望丘保育園
令和 2年度 区立世田谷保育園
令和 5年度 区立等々力中央保育園
- ②医療的ケア児受入枠 各園1名
- ③対象 医療的ケアが必要で、かつ集団保育が可能な子（1歳児クラス以上の子）

7 居宅訪問型保育事業（子ども・若者部保育課）

保護者が就労などのため、保育を必要とする医療的ケアが必要な乳幼児に対し、保育を行う事業者へ運営費を給付する。日中は児童発達支援施設（重症心身障害児施設）と連携して、長時間の預かりを行う。

<実施事業>

- ・障害児訪問保育アニー（連携施設：障害児保育園ヘレン経堂）利用定員13名
- ・ほわわびじっと1（連携施設：ほわわ花見堂）利用定員1名

8 区立学校での医療的ケア児への支援〔世田谷区特別支援教育推進計画（調整計画）〕

（教育総合センター支援教育課、乳幼児教育・保育支援課、子ども・若者部児童課）

平成30年度より区立学校への看護師の試行的配置を実施し、令和2年度より本格実施。令和4年度に、障害福祉部が所管する医療的ケア連絡協議会の小委員会として「医療的ケア児の区立学校での円滑な受け入れに関する作業部会」を設置。令和5年8月に学校や新BOP学童クラブでの医療的ケア児の支援について定めた（仮称）学校等における医療的ケア実施ガイドライン（素案）をとりまとめた。素案に対して、医療的ケア児の家族が所属する団体、区立小・中学校、区立幼稚園、学校医療的ケア看護師、世田谷区医療的ケア連絡協議会、関係団体等から意見をいただき、令和5年12月に案及び、別冊として学校における人工呼吸器に関するマニュアル（案）を取りまとめた。令和6年3月にガイドラインを策定する予定。

令和4年度配付分 ポータブル電源等の使用に関するアンケート(集計結果)

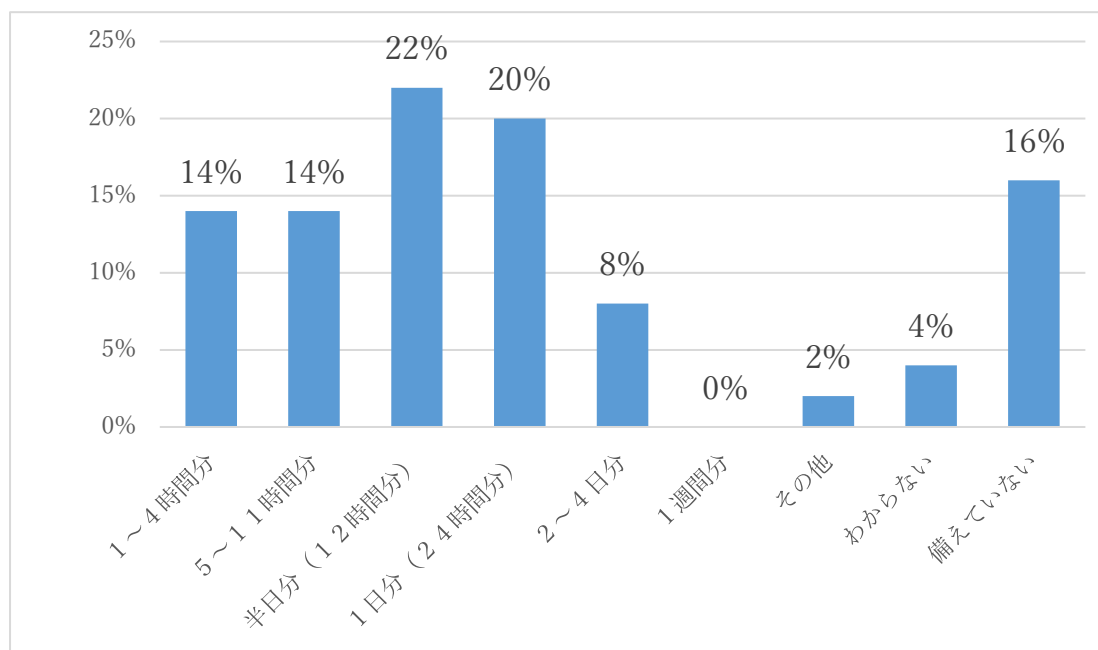
ポータブル電源等を配付したご家庭111件のうち 50 件回答あり。

アンケート実施期間：令和5年3月1日から3月26日

<ポータブル電源等の使用状況について>

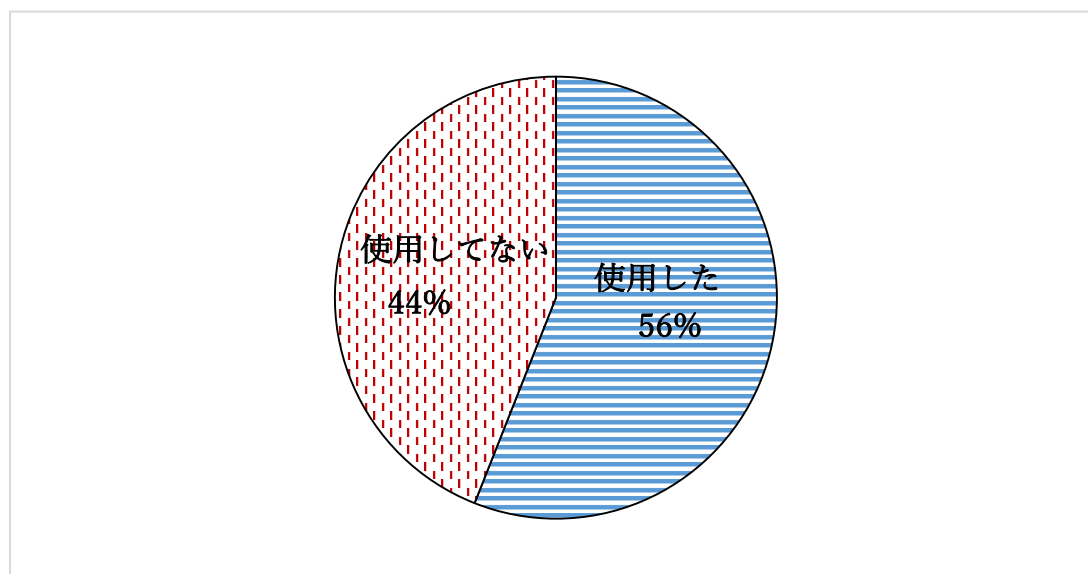
Q1 医療機器の電源はどのくらい備えていますか。選択肢のうち、最も近いものを一つ選択してください。

※令和4年9月に配付したポータブル電源等を含まずにお答えください。

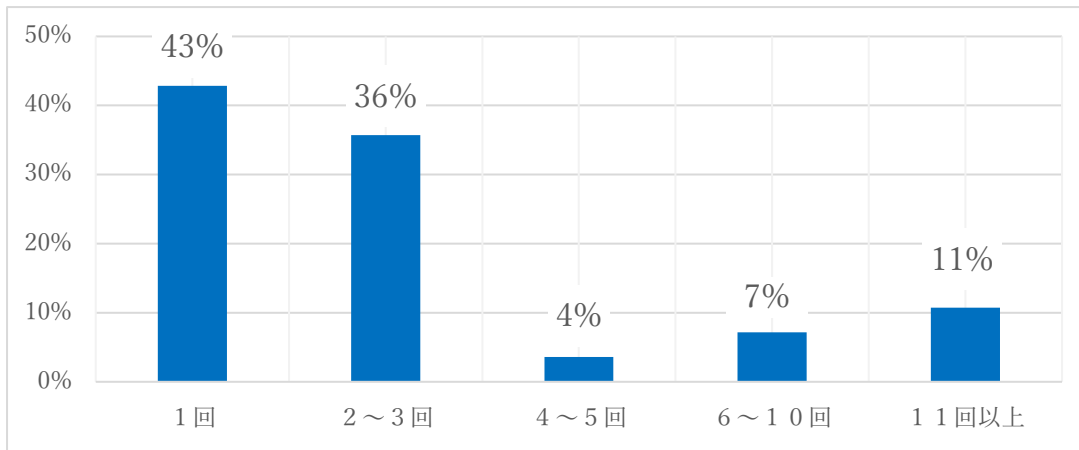


※「その他」の回答：電源を使わなくても吸引を行える足踏み吸引器、アミカポンプを使わなくても自然滴下またはシリンジ注入出来るようにしている。

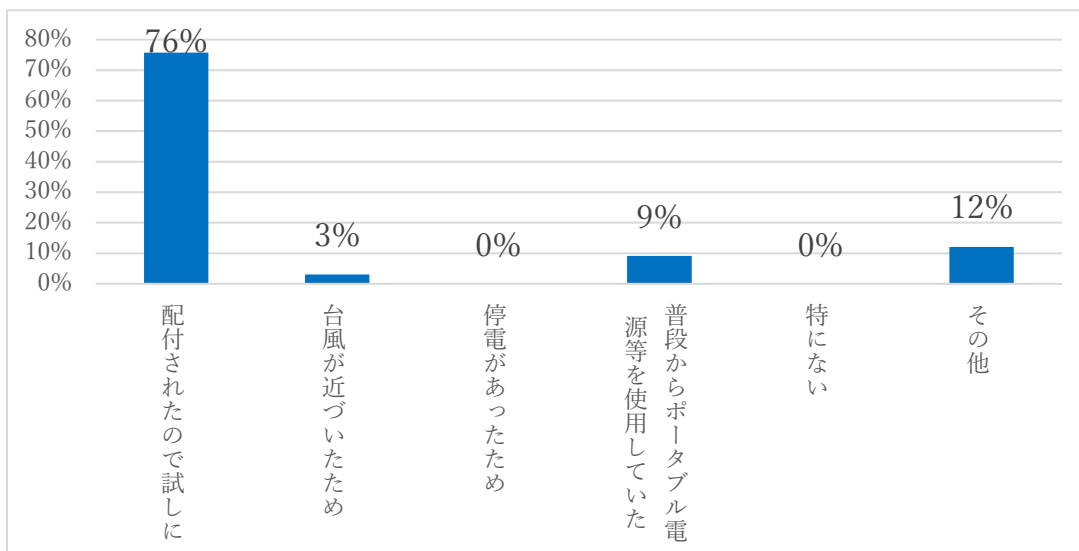
Q2 令和4年9月に配付したポータブル電源等を使用しましたか。 ※1を選択した方はQ3へ、2を選択した方はQ7へ進んでください。



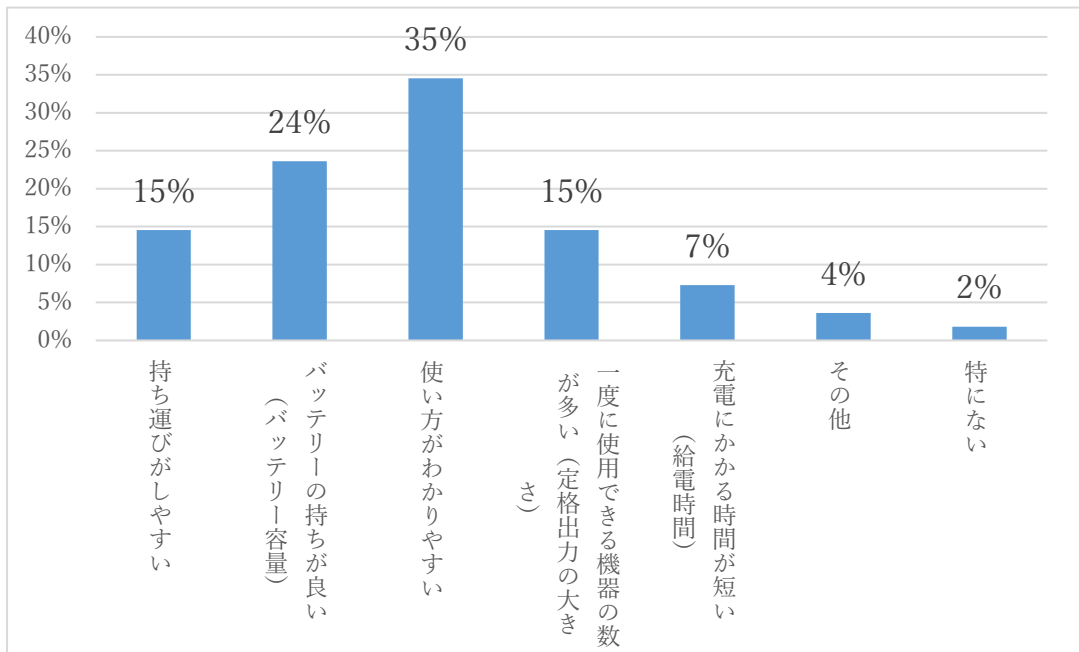
Q3 【使用した方へ】令和4年9月から12月までの間に何回ほど使用しましたか。



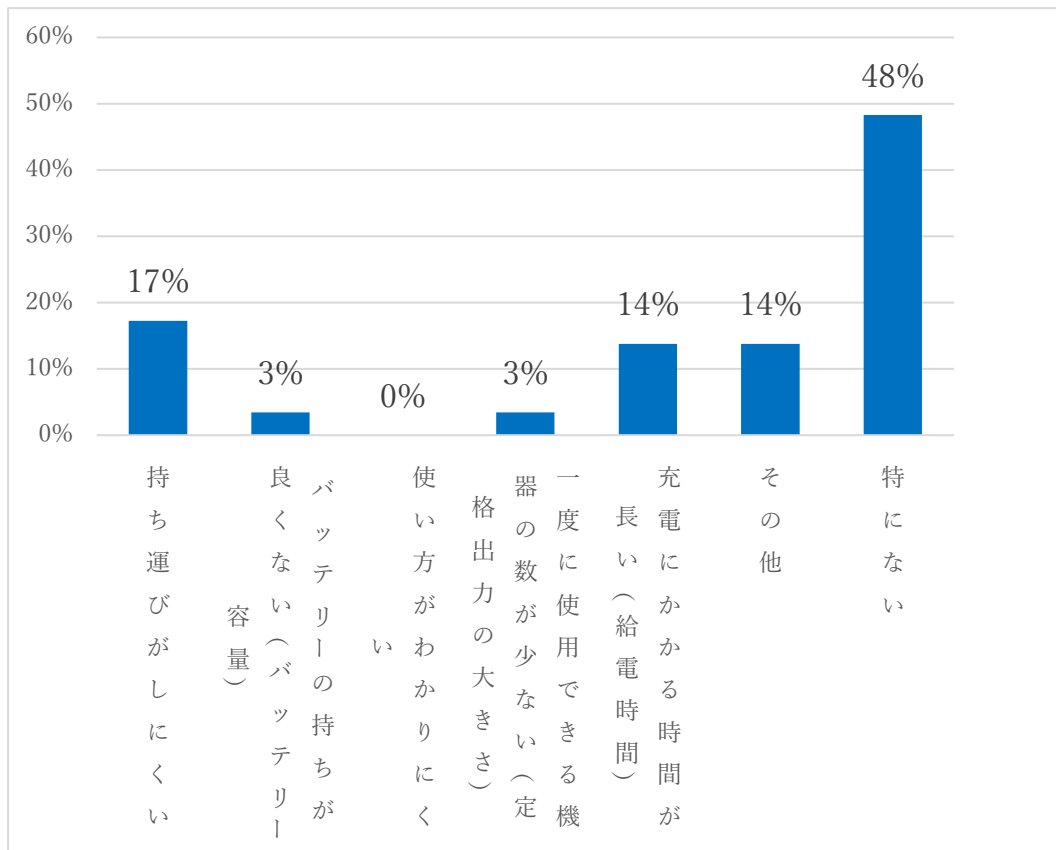
Q4 【使用した方へ】使用したきっかけを教えてください。（複数回答）



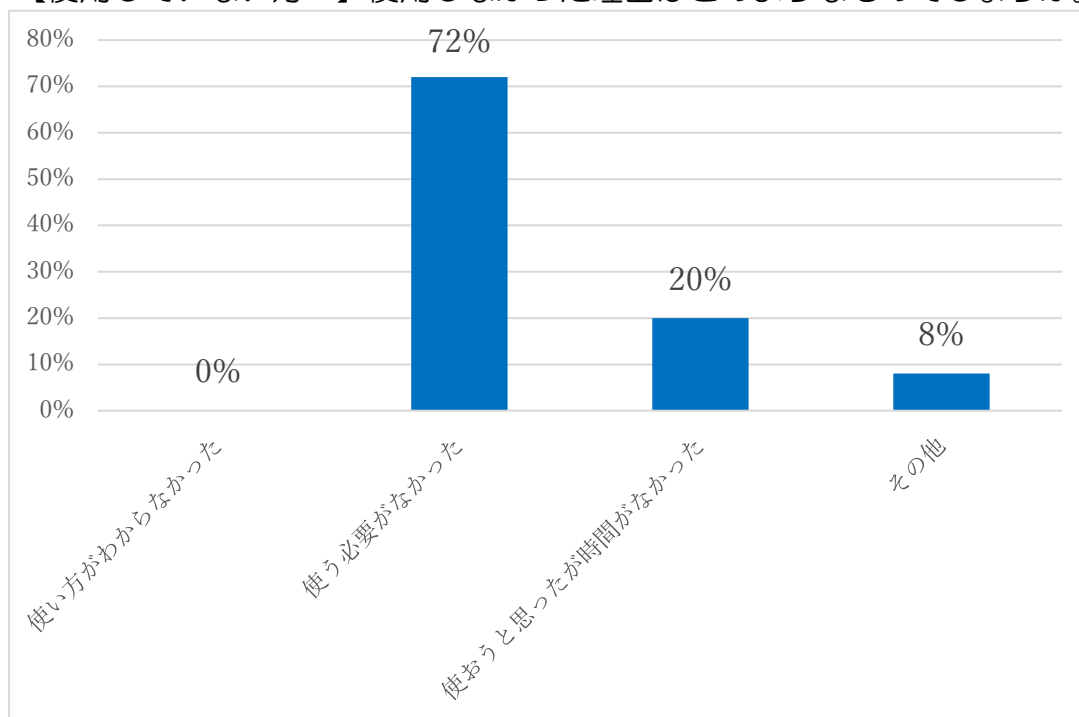
Q5 【使用した方へ】使用してみて良かった点を教えてください。（複数回答）



Q6 【使用した方へ】使用してみて困った点、良くなかった点を教えてください。（複数回答）
 ※回答後はQ8へ進んでください。



Q7 【使用していない方へ】使用しなかった理由はどのようなものでしょうか。（複数回答）



Q8 【共通】どのような機会があれば、ポータブル電源等を活用してみようと思いますか。あるいは、電源等活用のためにどのようなイベント等があると良いと思いますか。

例) 地域での避難訓練、使い方講習会、電源を持ち込んでキャンプなど

・避難訓練(複数回答あり)
・キャンプ(複数回答あり)
・使い方講習会(複数回答あり)
・地域ごとの医療機器ケア児家族での避難訓練を開催する。参加する際は蓄電池を使用することにする。地域での医ケア家族の顔合わせも兼ねて、災害時対応のことを話し合う。
・インクルーシブ公園でピクニック。参加する際は蓄電池を使用する。
・最近だと光熱費が高いので、普段使いで利用してもいいかと思っている
・これまでは難しかったキャンプや釣りなど外で活動するときや、災害時にはぜひ活用したい。
・ライフラインの断絶、バッテリーが切れて緊急に医療処置を行わなければならない状況のとき。外出先に持参して車内など電源が使えない必要時
・一年前くらいに自費で購入した発電機を停電時に使用したことはある。
・今後、停電時に使用したい。
・遠出の外出時に使用したい。
・自動車と電気使用の在宅医療器具の接続方法の指導
・各家庭ごとに医療器具に毎時ナンワット必要か意識することを広めては？例えばですが、このポータブル電源を障害保険福祉課の数台のパソコンに繋いで何時間持つかなど実際使って何時間くらい使えるかと、充電に何時間かかるかを広めてはみてはいかがでしょう？
・災害時とっていたので、他で使用するつもりがありませんでした。が、いちど、遠出する時などに車に積んで持って行ってみたいと思います。
・災害時の地域共助のため、避難訓練のみならず、バッテリーを使ったデイキャンプなどもプログラムにいった、楽しみながら関係作りを出来る避難訓練、イベントをお願いします。
・通っている病院、デイケア、保育園、学校等で避難訓練や使い方講習会があると、わざわざ別のところに行かなくてすみ、身近なので大切さが理解しやすいのではないかと思います。
・自宅が停電になる場合など
・自宅で日常的に
・実際に災害が起きた時
・車で遠方に行く時
・障害児も来れる公園でのイベント(電源を活用し、待機室は過ごしやすい温度に設定)普段は温暖な気候の時にしか公園に行けないので。また、兄弟児とも一緒に行けるから
・台風などで、実際に電源がとれない可能性がありそそうだと使わないと思う。ネガティブな理由ではなく、忙しいため、つつい優先が下がる。
・通っている病院、デイケア、保育園、学校等で避難訓練や使い方講習会があると、わざわざ別のところに行かなくてすみ、身近なので大切さが理解しやすいのではないかと思います。
・停電時、訓練時等必要に応じて使いたいと思う、
・天候が良さそうな時期に、電源を持ち込んでデイキャンプをやってみるのは、避難訓練も出来て、良いと思いました
・日々の外出に必要なので活用したいと思います。
・活用のためのイベントについては思い付きませんが医療機器を使用している障害者が電源を常に必要

としているという認知を一般の方に広められればと思います

・配布されてからは幸い使用する場面に遭遇しませんでした。宿泊の校外学習等で試す機会があると良いと思います。

・必要になるのは災害時だと思っています

・保健師による在宅社会サービス関係者を集っての練習会(災害訓練会)

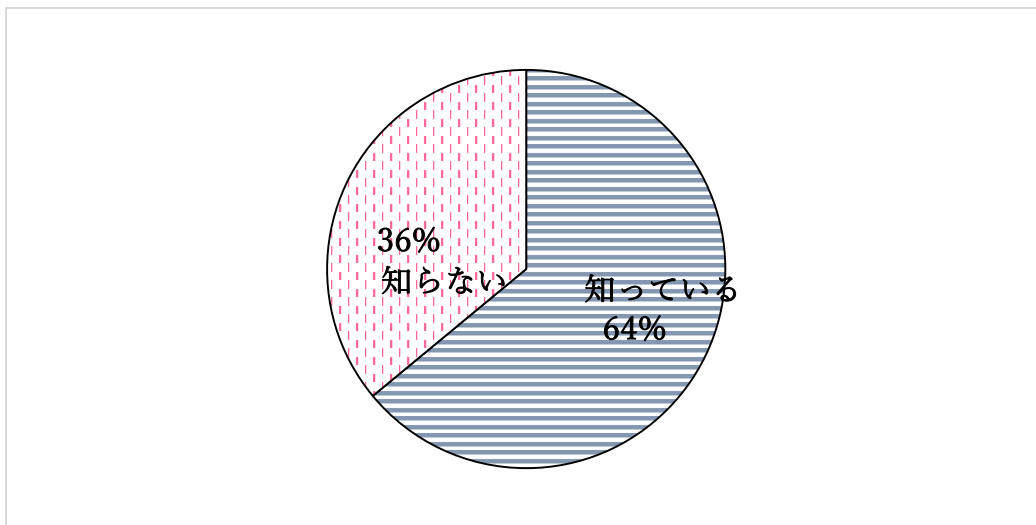
・放電給電のため、定期的には使用する。

・イベントとしては、定期点検

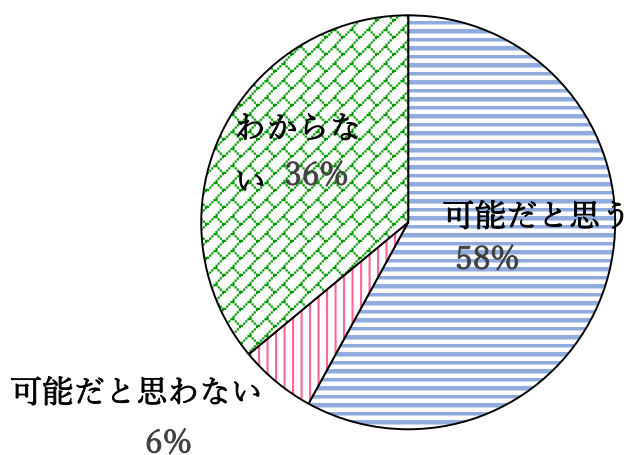
・思い浮かばない

<災害対策について>

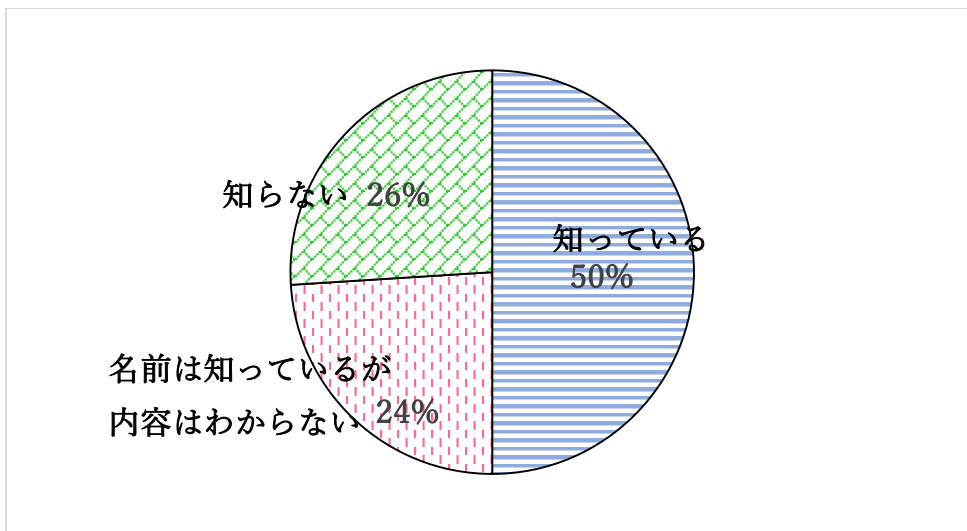
Q9 自宅に損害がない場合の「在宅避難」の考え方をご存じですか。



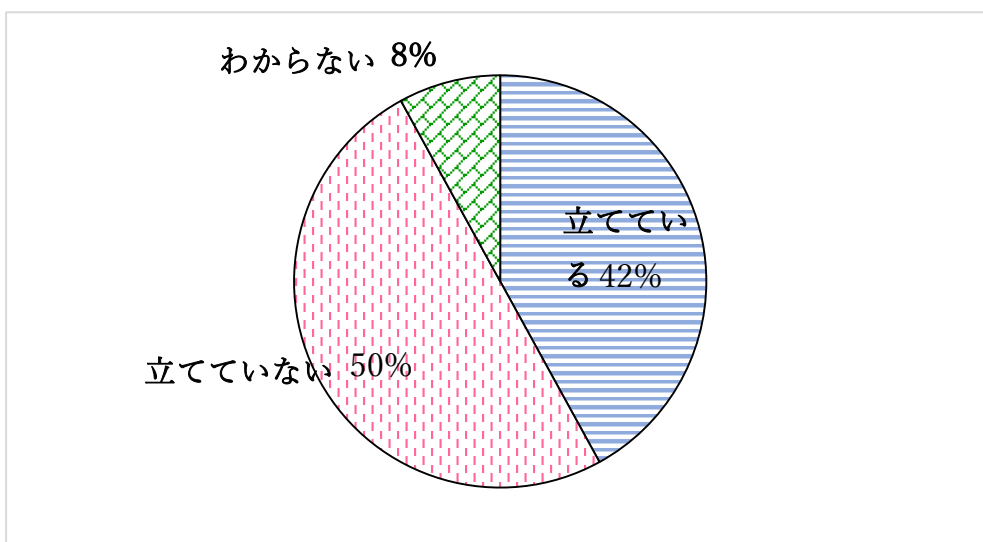
Q10 実際に「在宅避難」は可能だと思われませんか。



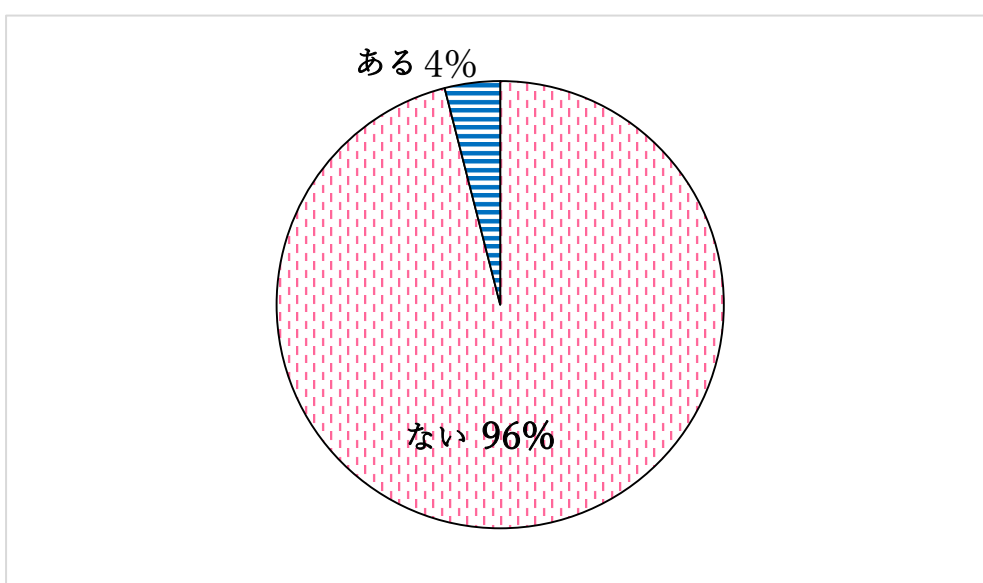
Q1 1 災害時個別支援計画を知っていますか。



Q1 2 災害時個別支援計画を立てていますか。



Q1 3 災害時個別支援計画を基に避難訓練をしたことがありますか。



Q14 電源確保について、ご意見があればご記載ください。

<p>・この度は、よいお品物をありがとうございました。このようにアンケートなどを通して振り返ると、貰いっぱなしにならずに良いと思いました。また、電動車の購入補助金があると有り難いです。</p>
<p>・この度は配布、ありがとうございます。本当に安心して在宅避難できそうです。子供をだいての避難ができないので感謝致します。</p>
<p>・とても早いご対応ありがとうございました。個別支援計画もしっかり立てていただき、在宅避難に向けて準備しております。呼吸器使用、持続吸引、電気毛布が必要など、消費電力が多い人へのサポートをよろしくお願い致します。</p>
<p>・バッテリーの充電について、つい忘れていたことがあるので、東北大震災の日や防災の日に注意喚起して頂けると有り難いです。</p>
<p>・ポータブル電源とは違いますが、発電機の使い方講習や、発電機のために購入したガスボンベの使用期限が過ぎた後の処理方法を教えて欲しい。未使用のガスボンベを自己処理するのは不安です。</p>
<p>・ポータブル電源は使用限度があり、日々進化しているので、定期的に配布していただくとありがたいです。</p>
<p>・ポータブル電源を配布して頂き、有事の際への不安が軽減されています。ありがとうございます。</p>
<p>・医療機器を、いくつか使用しているのでバッテリー1台だけでは対応しきれないので配布して頂いた機種バッテリーを購入致しました。私の、まわりの方でもバッテリーを2台持っている方がおり同じ考えの方や万が一の為に2台持っていると言う方が、いらっしゃいました。主治医とも災害時の事を話す事もあるのですが災害時は怪我をされている方が優先されるので電源の事だけで病院に来ても対応出来ないと思うのでバッテリーを購入するか電源を確保出来る所を調べておいて下さいと言われました。万が一、バッテリーの電源も使えなくなってしまう場合に呼吸確保は手動しかありませんが介助者が1人しかいなかった場合、電気が復旧するまで何日かかるか分かりませんが1人で手動で行う事は現実的に難しいと思いますし訪問看護師さんも、すぐに対応する事は難しいと思いますので医療機器を使用している方からすると色々不安ですし電源確保問題は悩みます。</p>
<p>・吸引器、吸入器を使っています。この程度であれば十分な電源容量と思いますが、他の一般的な使用(照明、暖房等)を考えるとさらに容量の大きなものが必要なのかなと思います。</p>
<p>・緊急時に焦らずポータブル電源を使うことができるのはとても心強いです。 日常的に使っていますが、だいたい何時間酸素に使える等目安が立てられて良かったです。</p>
<p>・今回いただいたポータブル電源は、ソーラーパネルも付いているので、長時間の発電にも耐えられると思います。大変助かりました。別途、ガスボンベ式の発電機も備えていますが、ガスボンベはストック量に限界があるので、ソーラーパネルの方が有り難いです</p>
<p>・災害時に関わらず電力供給の不足により使用制限がかかる可能性があるため、ポータブル電源大変助かります。</p>
<p>・災害時に電源を確保できる場所があらかじめあればマップのような形にしておいてほしいです</p>
<p>・災害時は、障がい者だけではなく、地域の全員が電源確保が困難な状況になると想像します。 吸引機を使用する娘にとって、ポータブル電源は大変必要な品物です。支給していただきありがとうございました。</p>
<p>・災害時個別支援計画を元にした避難訓練の機会がほしい。書類を作って終わりではなく、実際の災害時を想定した動きをイメージする必要があるとおもう。</p>
<p>・在宅避難でない場合、ポータブル電源を持って避難できるとは思えない。まず、避難してから、家に戻りポータブル電源を取り行くことになる。</p>

・自宅では在宅医療器具(酸素濃縮器、人工呼吸器、吸引器)を使用しているため、停電時におおよそ復旧見込みまで 24 時間分の電源が必要。季節的にも夏冬はエアコンを使用するため、更に電源が必要である。

昨年世田谷区から配付していただいたソーラーパネル充電式充電器は連続4時間程度の使用時間であるため、同発電器が6台必要である。

人工呼吸器等を使用している在宅医療では、電源確保は生死を分けるほど最優先事項であるため、24 時間対応可能な家庭用発電器を自宅に配付していただくか、近隣の医療機関、薬局、区の施設、警察署、交番、消防署、24 時間営業のコンビニ等に貸し出し用として配備していただきたい。(できるだけ 24 時間対応できるところに配備)

発電器はソーラーパネル充電式を希望します。

・充電の確認が平時より必要。地域の工務店など、発電機を持つ会社との連携の仕組みを検討すべき。修繕などの相互的なメリットもあると思われる。加温加湿器の重要性が認識不足ではないか？人工呼吸器を 24 時間使う人には不可欠なものであり、電力が多くかかる医療機器である。体温調節の難しさを抱える患者が多いので、災害時には命にシビアに関わってくることが予想され、心配している。

・台風 19 号の際にマンションが浸水しライフラインが途絶えた経験もあり、ハイブリッド車を購入しました。ガソリンを満タンにしておけば 2 日程度はしのげるようです。一日中呼吸器、酸素ボンベをしているので、支給いただいたポータブル電源ではほんの数時間しか持たず、経験上災害時は厳しいです。

・蓄電池を使用してみて、蓄電池 1 台では数時間しかしのげないことがわかりました。晴天でソーラーパネルにて充電出来たら安心ですが、蓄電に時間がかかります。指定避難所等に充電ステーションを設ける必要があると考えます。

・頂いたポータブル電源はソーラー給電ができるのでとても便利だと思います。ただ、梅雨時など天候が不安定な日が続くと長続きしないのでは？という不安も多少あります。

ですので、災害時等、世田谷区内で「ここに来れば医療ケア児も安心」な場所があると嬉しいです。

・停電が長くなった時に、手持ちの電源では足りなくなった時どうすればいいのかわからない。

・停電時だと仮定して、うちでは酸素濃縮器と呼吸器で毎時 120 ワットなので 500w のバッテリーで 4 時間くらい使用できるとして 24 時間で 6 個バッテリーが必要です。ソーラーパネル一つで一つのバッテリーが日照時間の短い冬で快晴だとギリ満充電できます。

日中は発電機が使用できるとしても毎日晴天でソーラーパネルが 3 枚—4 枚あれば生き延びられます。でもベランダにソーラーパネルを設置できるスペースの問題にぶつかります。

電源確保は、夜間(騒音問題で発電機が使えないとして)や日中の天候不良時(ソーラーパネル充電できない)に不安要素があります。

・電源確保は、非常時の安心のためには欠かせないため、とても助かります。

しかしながらそれがあれば大丈夫というわけではなく、気温、湿度、水分量、いつも食べてる食事メニュー、などなど、私たちは気にしなくても大丈夫なことも毎日管理して過ごして、なんとか体調維持ができていたため、停電などの際は空調が効かないのでとても心配です。

配慮が必要な方々向けに、空調の確保もできる空間を区にはいただきたいです。

・電源確保はおかげさまでひとまず安心しました。

ただ、長期に及ぶライフラインの断絶の場合、電源の供給をどこでさせていただけば良いかわかりません。不安です。またコロナや風邪のときなど吸引が頻回でしたので、避難時、避難先で電源が続くか心配です

・特にありませんが、このような電源確保をご用意下さったことは、とても安心材料で、ほっとしました。
在宅避難しか無理だと分かってるので、今後もよろしくお願いします。

・普段使っている医療機器と配布されたバッテリーのテストをしてみたい。

<p>Q5 【使用した方へ】使用してみても良かった点を教えてください。(複数回答)</p>	<p> <input type="checkbox"/>1 持ち運びがしやすい <input type="checkbox"/>2 バッテリーの持ちが良い(バッテリー容量) <input type="checkbox"/>3 使い方がわかりやすい <input type="checkbox"/>4 一度に使用できる機器の数が多い(定格出力の大きさ) <input type="checkbox"/>5 充電にかかる時間が短い(給電時間) <input type="checkbox"/>6 その他() <input type="checkbox"/>7 特にない </p>
<p>Q6 【使用した方へ】使用してみても困った点、良くなかった点を教えてください。(複数回答) ※回答後はQ8へ進んでください。</p>	<p> <input type="checkbox"/>1 持ち運びがしにくい <input type="checkbox"/>2 バッテリーの持ちが悪い(バッテリー容量) <input type="checkbox"/>3 使い方がわかりにくい <input type="checkbox"/>4 一度に使用できる機器の数が少ない(定格出力の大きさ) <input type="checkbox"/>5 充電にかかる時間が長い(給電時間) <input type="checkbox"/>6 その他() <input type="checkbox"/>7 特にない </p>
<p>Q7 【使用していない方へ】使用しなかった理由はどのようなものでしょうか。(複数回答)</p>	<p> <input type="checkbox"/>1 使い方がわからなかった <input type="checkbox"/>2 使う必要がなかった <input type="checkbox"/>3 使おうと思ったが時間がなかった <input type="checkbox"/>4 その他 </p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>
<p>Q8 【共通】どのような機会があれば、ポータブル電源等を活用してみようと思いますか。あるいは、電源等活用のためにどのようなイベント等があると良いと思いますか。例) 地域での避難訓練、使い方講習会、電源を持ち込んでキャンプなど</p>	<p>※自由記載</p>

<災害対策について>

Q9 自宅に損害がない場合の「在宅避難」の考え方をご存じですか。	○1 知っている ○2 知らない
Q10 実際に「在宅避難」は可能だと思われますか。	○1 可能だと思う ○2 可能だと思わない ○3 わからない
Q11 災害時個別支援計画を知っていますか。	○1 知っている ○2 名前は知っているが内容はわからない ○3 知らない
Q12 災害時個別支援計画を立てていますか。	○1 立てている ○2 立てていない ○3 わからない
Q13 災害時個別支援計画を基に避難訓練をしたことがありますか。	○1 ある ○2 ない
Q14 電源確保について、ご意見があればご記載ください。	※自由記載

【アンケートは以上です。ご協力いただきありがとうございました。】

郵送先：〒154-8504
世田谷区世田谷4-21-27
世田谷区障害福祉部障害保健福祉課

お問い合わせ先：03-5432-2242